

いのちと健康を守る活動

—CMIP ジョジョのクリニックから—

<医療定期支援、7月—9月の報告より>

<巡回診療>

8/12-13：匿名での薬品寄付があり、ティボリ町バランガイ・バサグのトゥロクバトにて巡回診療を実施した。

一般診療 17名、歯科診療 24名。

9/9：ティボリ町バランガイ・モンゴカヨのルヘブでマドリード歯科医の巡回診療を行った。歯科診療 23名。



<その他の医療支援から>

7/3：3日前から下痢、咳、熱が続いているサンアリサ（9ヶ月）がピラーンの村サムラングから連れてこられた。ジェネラルサントスの病院へ紹介し薬が処方された。母親に茹でたグァバの若葉が下痢止めになることをアドバイスした。

8/29：前日犬に指を噛まれたマルゴン町サムラング村の男性（29歳）が受診。犬が死んだので、狂犬病予防のため、すぐ病院へ行くよう指示する。患者は今日現在で3回目の狂犬病予防注射を接種した。

<母親クラブの発足>

CMIP 運営の小学校がある地区では、以前から先生方の指導のもと、高原野菜やハーブ薬草の活用、栄養教室を行ってきましたが、アトモロックの場合には、母親クラブがあり、先生たちがカバーできないエリアでの指導を行って来ました。今回、ティボリ町バランガイ・マーンのバルナブ、タブロ、スプ、フィタクの各地区でも発足しました。

母親クラブの目的・活動：

- ① 裏庭等で野菜や薬草を育てて、子どもの栄養改善や薬草の活用に努める。
- ② 健康指導・健康保健加入キャンペーンの継続・各家庭の衛生管理に努める。

—ムスリム医療チーム PIHS から—

<7月—9月活動報告より>

今年のPIHS（バササンバオ統合ヘルスサービス）を通じての支援は、スタッフ給与や奨学金など小規模のものです。内容のある報告が届きました。以下にその主なものを紹介させていただきます。

◆ 研修、学習会の活動

保健ボランティアの基礎医療技術と生計改善を目的にミーティングや研修などを行った。

<主な研修とその成果>

7/18, 19	組織内トラブルへの対応について	自主財源事業リーダー等 30名が参加。不熱心なメンバーへの対応、収益配分の問題など、参加者はその対処法を学ぶことができた。
7/29, 30	呼吸器疾患について	参加者 20名の多くは女性と青少年たちだが、父親も参加してタバコの体への影響について議論できた。（バロンギス地区）
8/6, 7	組織を発展させるためには	4地区合計 23名が参加。組織の発展、能力向上のためのワークショップを実施。
8/20, 21	性と生殖に関する権利の最新情報	識字教室で学ぶ母親を含む 25名が参加した。（ブラコン地区）

◆ その他のヘルス活動から

<保健ボランティア間での経験の共有>

7月には各地区のボランティアが集まり、下痢、はしか、耳下腺炎、高血圧、結核、疥癬、心臓病患者への対応事例を共有した。また、保健所など行政の関与、支援を強く求めていくこととなった。

<血液型検査>

バロンギスの保健ボランティアは、PIHS スタッフや看護学生にも手伝ってもらい、緊急時に備えて住民の血液型検査を実施。



◆ 自主財源創出事業

ブラコン：ヤシ屋根材の共同出荷事業順調。

バロンギス：トラクター貸付収益を財源とする小口貸付のルールを決めた。

トゥヤン：MULAN は政府登録も済み、町からは工房建設支援の約束ももらい、さらに高品質のバニグ編み製品づくりに励む。